

資料 3:地震防災マップの作成方針

1. 現行の地震防災マップ

○地震に対する備え 耐震診断の説明、耐震診断に対する助成制度

○地震に役立つ情報 気象庁、医療機関案内、警察署、市コールセンター、市防災アプリ「そなえ」など ※北海道胆振東部地震を踏まえ追記

○地震防災マップとは 第3次地震被害想定の内容等

○緊急地震速報について

○「揺れ」と「被害」の関係性

○地震発生時から数日間の標準的な行動パターン

○自宅に残る場合に注意すべきこと

地震防災マップとは

大規模な地震が発生する、建物の倒壊や家具の落下に起因する被害が想定されます。災害発生時、適切な対応を行うことが被害の軽減につながります。地震防災マップは、第3次地震被害想定に基づいて、市内の各区域ごとの被害想定を明らかにし、自治体や住民が防災対策の取組むべき地域を明らかにしています。

利用にあたって

地震マップは、市内の各区域ごとの被害想定を明らかにし、自治体や住民が防災対策の取組むべき地域を明らかにしています。

液状化危険度図は、地盤の液状化危険度を明らかにしています。液状化は、地震発生時に地盤が液状化し、建物の沈下や傾斜を引き起こす可能性があります。液状化危険度図は、液状化の危険な地域を明らかにしています。

建物全壊率図は、地震発生時の建物全壊率を明らかにしています。建物全壊率図は、建物全壊の危険な地域を明らかにしています。

知っておこう

揺れと被害 揺れが強いと、立っていることも困難になります。揺れが強い地域では、建物や家具の被害も大きくなります。揺れが強い地域では、建物や家具の被害も大きくなります。

緊急地震速報 強い揺れが来る前に、テレビ、ラジオで地震をお知らせします。緊急地震速報は、地震発生から数秒遅れで放送されます。強い揺れが来る前に、テレビ、ラジオで地震をお知らせします。

災害用伝言ダイヤル「171」で災害情報を音声により伝えます。

地震発生時の行動

地震発生時 1-5分後 身の安全を確認 5分後- 10分後 周囲の状況を確認 10分後- 30分後 状況に応じて避難行動 30分後- 1時間後 状況に応じて避難行動 1時間後- 3日以内 避難生活の準備

避難場所への生活が始まります

避難場所での生活が始まります。避難場所での生活には、避難生活の準備が必要です。避難場所での生活には、避難生活の準備が必要です。

○地震防災マップ利用にあたって 想定地震・液状化危険度・建物全壊率について

○災害用伝言ダイヤル(171)の活用方法

○避難場所へ行く場合に注意すること

○避難場所で生活する上で留意すること

○家具の固定と安全確保

○備蓄品

○非常持出品

家具の固定と安全確保 家具の固定と安全確保は、地震発生時の被害を軽減するために重要です。家具の固定と安全確保は、地震発生時の被害を軽減するために重要です。

備蓄品 備蓄品は、地震発生時に必要な物資を確保するために重要です。備蓄品は、地震発生時に必要な物資を確保するために重要です。

非常持出品 非常持出品は、地震発生時に必要な物資を確保するために重要です。非常持出品は、地震発生時に必要な物資を確保するために重要です。

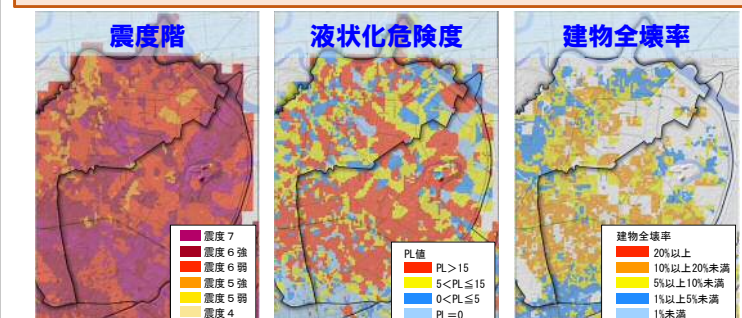
○高層建築物での注意事項

○停電への備え ※北海道胆振東部地震を踏まえ追記

○冬の備え

2. 地震マップ更新の着眼点

- 札幌市に大きな影響が想定される地震の震度を重ね合わせ、その最大値を表示。
(→「3地震」から「5地震」へ変更)
- ※現行想定3地震：野幌丘陵、月寒、西札幌
※今回想定5地震：野幌丘陵、月寒、西札幌、苫小牧沖、石狩低地
- マップの下図を全地域で同品質に。
(→「現況図」から「地理院地図」へ変更)
- 掲載内容を最新情報に更新。(避難場所・土砂災害危険箇所等)



3. マップの周知例

- ① 全戸配布
- ② 市民説明会
- ③ 出前講座
- ④ パネル展 (チカホ)
- ⑤ 市ホームページ
- ⑥ 市Twitter
- ⑦ 市防災アプリ (そなえ)
- ⑧ Digital Signage
- ⑨ さっぽろ防災ポータル

②市民説明会

④パネル展 (チカホ)

⑦市防災アプリ (そなえ)

⑨さっぽろ防災ポータル